

土木紀行

東西用水酒津樋門

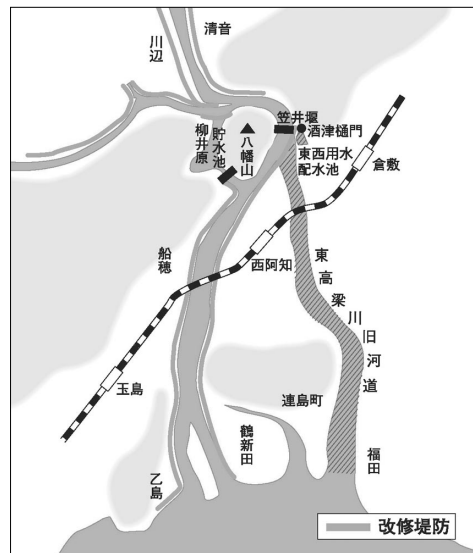
岡山県倉敷市酒津

たかはしがわ
 高梁川は、中国山地から瀬戸内海の水島灘まで岡山県西部を流れる岡山三大河川の一つです。高梁川上流は砂鉄の含有量が高い花崗岩などが広く分布し、古くから鉄穴流しが盛んに行われていました。このため、大量の土砂は河口付近に三角州を形成したものの、ひとたび豪雨に見舞われると、流域に大被害を与えました。

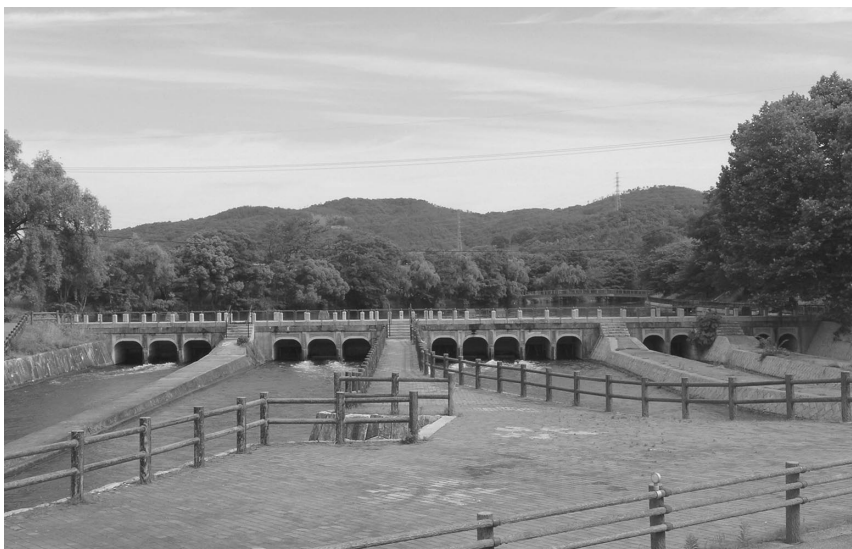
特に、明治26年(1893)の大洪水では、死者292人、流出家屋5,000戸以上という大災害となり、これを機に明治40年(1907)から内務省による直轄改修工事が開始されました。高梁川は、それまで倉敷市酒津の八幡山北麓で東西二つの流れに分かれていましたが、この改修後、東派川は締め切って農地や工業用水となり、西派川は拡幅されて一本の川となりました。また、両派川に12カ所あった農業用取水口は合同堰(笠井堰)にまとめられ、この堰から取水された水が、21の樋門によって各地へ配水されます。この樋門が東西用水酒津樋門です。

国内最大級の土木遺産「酒津樋門」

酒津樋門は、樋門の高さを統一し、幅(樋門の数)を変えることで、従来と同じ水量を配分しています。この地域では、豊富な石材を利用した構造物が多く見受けられますが、それらの中で、こ



高梁川改修略図



酒津樋門南樋門15連

の樋門は鉄筋コンクリート構造で、花崗岩の装飾を施した麗しい姿を見せています。今も活用されている樋門としては、15の樋門を持つ南配水樋門は、国内最大級です。また、長い歴史と優れた景観より、平成17年度に農水省の「疎水百選」に選ばれました。

水江の渡し

高梁川に唯一残る渡し舟「水江の渡し」が運行されています。川渡りは距離にして50mほどですが、手の合図で、木造の小舟が、人や自転車を運んでいます。対岸は同じ水江の町で、川に沈んだ道の替わりとなる生活道路となっています。



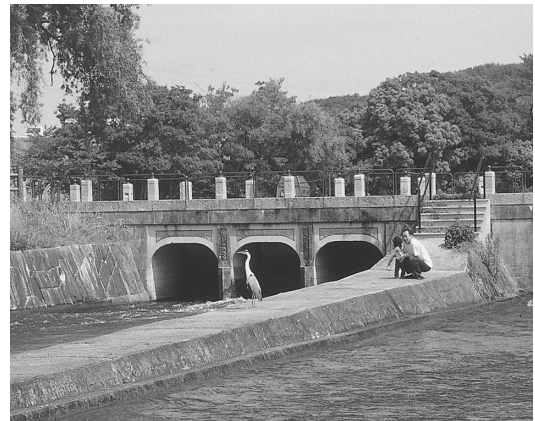
水江の渡し

幕末から明治にかけ14カ所あったとされる渡し舟は、橋や道路の整備で姿を消しましたが、この水江では日本の原風景が今も残されています。

水と緑の潤いの空間は市民の安らぎの場

平成10年に、老朽化した施設の整備と併せて、配水池周辺の緑地や遊歩道など水辺環境が整備され、水と緑が豊かな憩いの場として多くの市民に親しまれています。

この歴史的土木構造物と周囲の豊かな自然が調和した景観は、大正5年（1916）に高梁川東西用水組合が結成されて以来、嘗々と管理が続けられてきた努力のたまものです。



酒津水門

<p>【交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陽新幹線新倉敷駅よりタクシーで約20分 ・JR 倉敷駅よりタクシーで約10分 ・山陽自動車道倉敷ICより約20分 <p>【探訪コース】</p> <p>（酒津公園）</p> <p>酒津公園，高梁川改修によってうまれた名勝で，十余町歩にのぼる貯水池，池をめぐる数百本の桜，堤防上より見る美しい山景は酒津富士として楽しむ山紫水明，風光明媚なところです。</p>	<p>また，春は桜，夏は小川での水遊びなど遊具もあり親子で一年を通じて楽しめる酒津公園は観光客だけでなく市民の憩いの場として親しまれています。</p> <p>（倉敷の美観地区）</p> <p>酒津から南に行くと，倉敷美観地区に入ります。江戸時代，幕府の天領であった倉敷は，倉敷川を中心に物資の集散地として栄えました。白壁の蔵や町屋が織りなす町並みは今もその姿を変えずに残されています。この美観地区にはエル・グレコをはじめとした世界の巨匠たちの名画が収蔵されている大原美術館や倉敷民藝館，考古館などがあり，観光都市</p>	<p>倉敷の象徴的な名所です。</p> <p>また，平成17年10月から夜間景観照明を開始し，ほのかな明りが白壁を照らし，幻想的な空間で訪れる人を癒しています。</p> <p>【特産品】</p> <p>（酒津焼）</p> <p>風土と人間性が自然に表された，土のぬくもりを感じるような作風で，製陶されているのが酒津焼です。</p> <p>【問合せ先】</p> <p>岡山県倉敷市観光企画課 電話 086 426 3411 FAX 086 434 2017</p>
---	--	---